

## ■ 人間の心と慣性の法則、ただ現実あるのみ

修正： 2021.03.01

投稿： 2021.03.01



### ● 人間の心と慣性の法則、ただ現実あるのみ①

忙しい日々が続いております。忙しさのあまり、

こんな毎日の繰り返しに何の意味があるのだろうか…  
と、ときたま疑問に思いながら生きている今日この頃です。

//-----

### 「自分の心くらい簡単にコントロールできる」

と軽く捉えていると、そのあまりの難しさに、挫折します。  
自分の心すら満足にコントロールできないのが私たちです。

車が、速度を落とさなければ急カーブを曲がれないように、  
心もまた、速度を落とさずして急に向きを変えることはできません。  
車に**慣性**が働いているように、心にも慣性が働いているからです。

となると、当然、**質量が大きいものほど変化しにくい**、  
ということになります。普通自動車とダンプカーでは、  
遠心力がまるで違います。質量が違うからです。

同様に私たちも、**質量**の大きい人ほど、  
向きを変えるためにより多くの力を必要とします。  
(必要な力は、変化と質量の積に比例します)

もっと言うと、私たちの心は常に**成長**しています。  
新しいことを学び、取り入れることで、  
質量は**増大**しているのです。つまり、年を取れば取るほど、  
**自分を変えることが難しくなっている**ということなのです。

人間 40 歳を超えれば生き方を変えることができなくなる、  
と言われていました。自分を変えられるのは、  
まだ質量の小さな若いうちだけです。これは逆に言うなら、  
年を取れば取るほど**安定**する、ということでもあります。

それで、最初の「自分の心くらい簡単にコントロールできる」の話に  
戻りますが、積み重ねれば積み重ねるほど慣性が大きくなっていく以上、  
年を取れば取るほど、**自分の心は自分の手に負えなくなる**のです。

(続)

//=====//

## ●人間の心と慣性の法則、ただ現実あるのみ②

欲求を満たせばその瞬間は幸せでしょう。しかし、  
その後にやってくる虚しさは、何とも言い難いものです。

中学生・高校生の頃は、勉強せねばと思いつつも、  
家でゲームばかりしていたものです。しかし、  
ゲームをクリアして終わってしまえば虚しいもので、  
「またつまらぬことに時間を使ってしまった… (-\_-メ) 」  
と、束の間の快感と引き換えに後悔の念が残ります。

同様に、ギャンブルやアルコール、性犯罪や薬物についても、  
束の間の快感と引き換えにその後は虚無感が続くことになり、  
トータルで見れば不幸そのものです。

「だからもう二度とあんなことはしない！  
ギャンブルには手を出さない！アルコールも控える！」  
と心に誓ったとしても、一度でもそれに手を出したなら、  
また手を出したくなるのが人間です。

車が急に止まれないように、人の心にも慣性は働いており、  
今までの生き方を捨てて、明日から人生を変えることはできません。

「それをやるとトータルでは不幸になる、  
幸せな状態は最初のうちだけなのだ！」  
と頭では分かっている、心はその方向を向いているわけですから、

ギャンブル、アルコール、性犯罪、薬物、と心からの叫びには勝てず、

やはり誘惑に負けてしまいます。こういう人に対して、  
私たちは「意志の弱い人」だと思いがちですが、  
意志が弱いわけではありません。依存性が強い、のです。  
つまり慣性が強いのです。

幸せになりたいと思い、軽い気持ちで手を出してしまうと、  
もう二度とそこから抜けられなくなり、人生が崩れていきます。  
私たちにできることは、せいぜい手を出さないことだけです。

(続)

//=====//

## ●人間の心と慣性の法則、ただ現実あるのみ③

至る所で「罪」という言葉が使われておりますが、  
そもそも「罪」とはいったい何を指しているのでしょうか？

「罪深い奴だ！地獄に堕ちろ！」と

感情的になっている人は、相手の罪を責め立てているわけですが、  
ではその「罪」とはそもそも何なのでしょう？

悪いことをすればそれが罪だ、と言うのであれば、  
善悪の基準が時代とともに大きく変わることを踏まえると、  
罪か否かは、時代とともに変化することになります。

したがって、「罪を犯せば地獄に堕ちる」  
と考えているのであれば、天国に行くか地獄に行くかは、  
神様が決めているのではなく時代が決めている、  
ということになります。

私たちは、罪と聞くと、  
何となく悪いことをしたというイメージで、  
その後、償いのために苦しまなければならない、  
といった印象を抱いていると思います。ですが、  
その「罪」という概念をイマイチ説明できないのが実態です。

こうした背景を踏まえつつ、  
ここでは「罪」を「慣性」として捉えます。慣性とは、  
今までやってきたことを継続しようとする性質のことです。例えば、  
犯罪に手を染めた人は、出所しても、再び罪を犯そうとします。

車が急に止まれないことと同様に、  
人の心も急に生き方を変えることはできません。そして、  
この慣性によって自分の未来は作られていくわけであり、  
罪を犯した人はそれに相応しい未来が引き寄せられるのです。  
(この慣性のことを仏教では業と言います。自業自得の業です)

その未来が気に入ったなら受け入れればいいだけですし、  
気に入らなければ、行いを反省しなければなりません。つまり、  
その行いが罪かどうかは自分で決める、ということになります。

しかし、年を取れば取るほど、自分を変えることは  
難しくなりますから、改めたい気持ちがあるのであれば、  
まだ質量の小さい若いうちに改めることが賢明です。

(続)

//=====//

## ●人間の心と慣性の法則、ただ現実あるのみ④

性犯罪に及んだ人は、また性犯罪に及びたくなりますし、  
薬物に手を出した人は、また薬物に手を出したくなります。  
ギャンブルやアルコールも同様です。

こうした不幸の連鎖を止めたければ、まずは、  
不幸への加速度を下げなければなりません。

週に5回もギャンブルに手を出していた人が、  
週に4回に抑えられたなら、これはこれで良いことでしょう。  
そうして4回が3回になり、3回が2回になり、  
2回が1回になり、やがてやらなくなる、

「ローマは一日にして成らず」同様に、  
「善い精神は一日にして成らず」です。

悪に染まるのは一瞬ですが、善い方向へはなかなか進みません。

これまで犯罪に手を染めてきた人が、急に心を入れ替えて、  
明日からは善人として生きていく、というのは不可能です。

不幸の種を1000回蒔いたなら、  
幸せの種を1回蒔いても、幸せにはなれません。  
まだ不幸の芽が999回残っているからです。  
それでも不幸を999回に減らすことはできます。

千里の道も一歩“ずつ”です。その上、  
目的地から逆方向に千里進んでしまったとなれば、  
目的地までは**二千里の道**となります。

となれば二千里の道も一歩“ずつ”です。  
過去は消えません。できることは、  
せいぜい**上書きすることだけ**です。

不幸の種を1000回蒔いてしまったなら、  
幸せの種を2000回蒔くことです。  
罪の種を1000回蒔いてしまったなら、  
償いの種を2000回蒔くことです。

どれだけ過ちを犯しても、それを上回ることをすれば、  
いくらでも挽回はできますが、過ちを犯せば犯すほど、  
這い上がるために必要な努力量は増えていくのです。

(完)

//=====//

Web サイト :

**心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー**

著者 :

**時無 和考(Tokinashi Kazutaka)**